

日刊 動労千葉

85. 9. 16

No. 2040

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二九三五）六・（公衆〇四七二）七二〇七

決定 反撃を以て 11月突破口

第3日目

実力決起方針と新執行体制を確立して大成功裡に終了

大会速報 105

動労千葉第10回定期大会は、最終日の十一日、中曽根―監理委―国鉄当局―さらには、裏切り者・動労「本部」革マルを先兵とした十万人首切り―国鉄労働運動解体攻撃に対し、数波にわたるストライキで反撃に決起する断固たる運動方針を採択し、大成功のうちに幕を閉じた。動労千葉一〇〇名組合員は、直ちに闘う方針の意志統一をかちとり、決戦突入―勝利にむけた闘う体制を確立し、家族ぐるみまじりを決して、全国三〇万の国鉄の仲間たちよ、今こそ積ったこの怒りの全てを敵―中曽根に思いきり叩きつけ「7・26監理委答申」もろとも反動中曽根体制をズタズタに引きさいてやろうではないか。いよいよ本格的爆発にむかっている日米経済対立に象徴されるどたん場の体制危機に追いつめられ焦りあがっている中曽根の余裕のない恫喝政治も、一皮むけばその足元はもはやグラグラだ。全人民のほとんどが中曽根の「力の反動政治」戦争政治に危機を感じ「今のうちに反対しなければ・・・」と考えはじめ、行動への結集軸を求めつつあるのだ。「靖国神社公式参拝」「防衛費一％枠突破」・・・等々への全人民の怒りと批判は、反中曽根へと急速に集れんしている。「三里塚と国鉄を軸に中曽根を実力で倒せ」―これは今や天の声、地の声だ。今秋から来秋にかけ、三里塚二期決戦の爆発と固く結合し、全国鉄労働者30万の国鉄ゼネストをもって「答申」粉碎―中曽根打倒をかちとろう。動労千葉は、その最先頭に立つて今秋決起へつき進むことを大会の名をもって満場一致決定し、決断した。

全国の仲間よ、いざ共に決起せん。

全代議員から中曽根倒せの声

大会第3日目（9月11日最終日）は、9時に再開となり、冒頭、来賓のあいさつをうけた。

赤桐操参議院議員 は、「われわれの当面する最大の課題は国鉄

『分割・民営化』であり、この解決なくして将来は無い。腹をすえて全力で闘う」と述べられ、

小川国彦衆議院議員は、「政府・自民党は10万人首切りの最初に『2万人の希望退職』を募集するための法案を出してくるだろう。国会の場で追及し、国鉄問題を動労千葉と運命共同体でがんばっていく」とあいさつされた。

ひき続き「運動方針」で討論

続いて、昨日にひき続き、運動方針の質疑応答に移った。出された意見は次の通りである。

（裏面へつづく）



中野委員長の音頭で「決戦勝利へむけ、団結ガンパロー！」（大会最終日）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！